

令和6年12月17日（火）
「食」を通じた地域の見守り機能強化研修会

【基調提起】

沖縄における見守り支援活動について

琉球大学 人文社会学部（社会福祉学コース）

田中 将太



はじめに ～地域の見守り機能強化とは～

「地域の見守り」:地域内の人々が日常的な交流を通じて、困難を抱えた人々の小さな変化に気づき、支援のきっかけを作る仕組み。例えば、食堂や地域での集いの場が、人々の様子を見守る場所として機能し、異変や支援ニーズが生じた際に、専門機関や行政へつなげる重要な役割を果たす。≠監視や施しの視線

「地域の支え合い」:地域住民等がお互い様の関係から「できること」を出し合うことで、孤立や貧困などの問題に対処する共助の仕組み。特に「食」を通じて世代を超えた交流やサポートが生まれることで、地域全体が関与しやすい形での持続可能な支援活動が可能になる。これは、地域の資源を活用しながら、地域で過ごす人々や事業者等が地域の一員として役割を担うことによって実現。

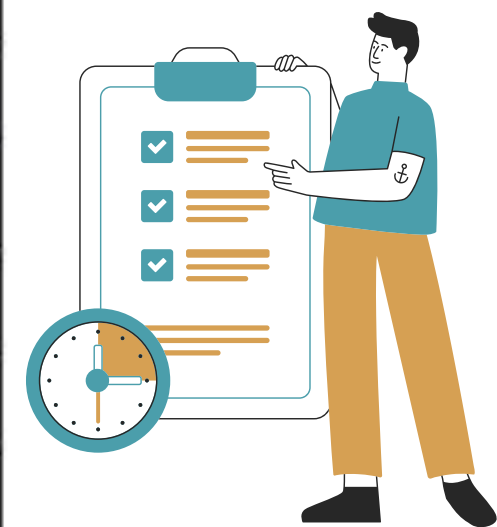
「個別支援」:生活に困難を抱える個人や世帯に対して、地域のつながりや支援団体が介入し、特定のニーズに応じた直接的なサポートを提供すること。食の提供を通じて、利用者と支援者が信頼関係を構築し、必要に応じて行政や福祉サービスと連携して専門的なサポートへつなぐ。



「出会い」・「つながり」・「気にかかけあう関係づくり」

沖縄の子どもを取り巻く現状

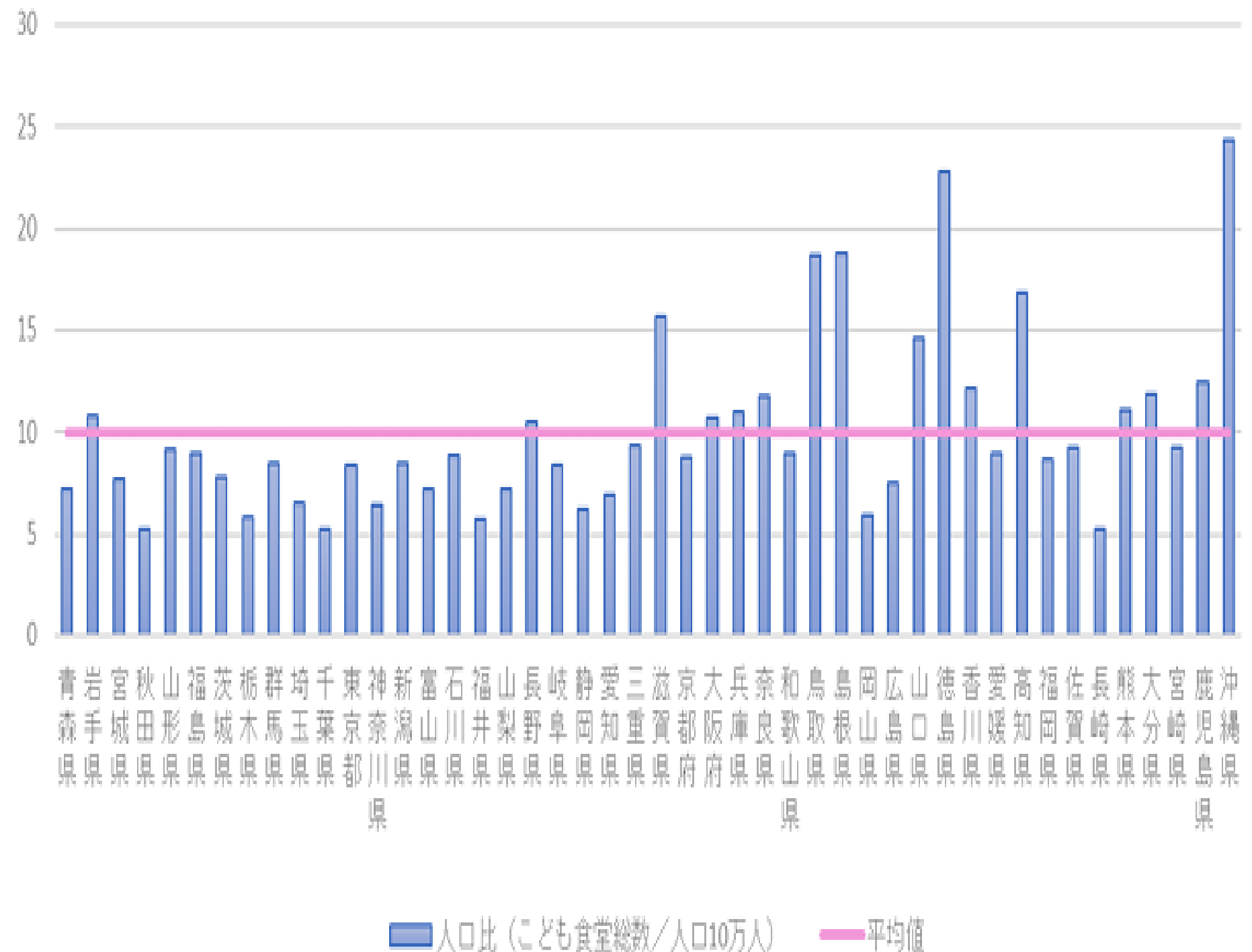
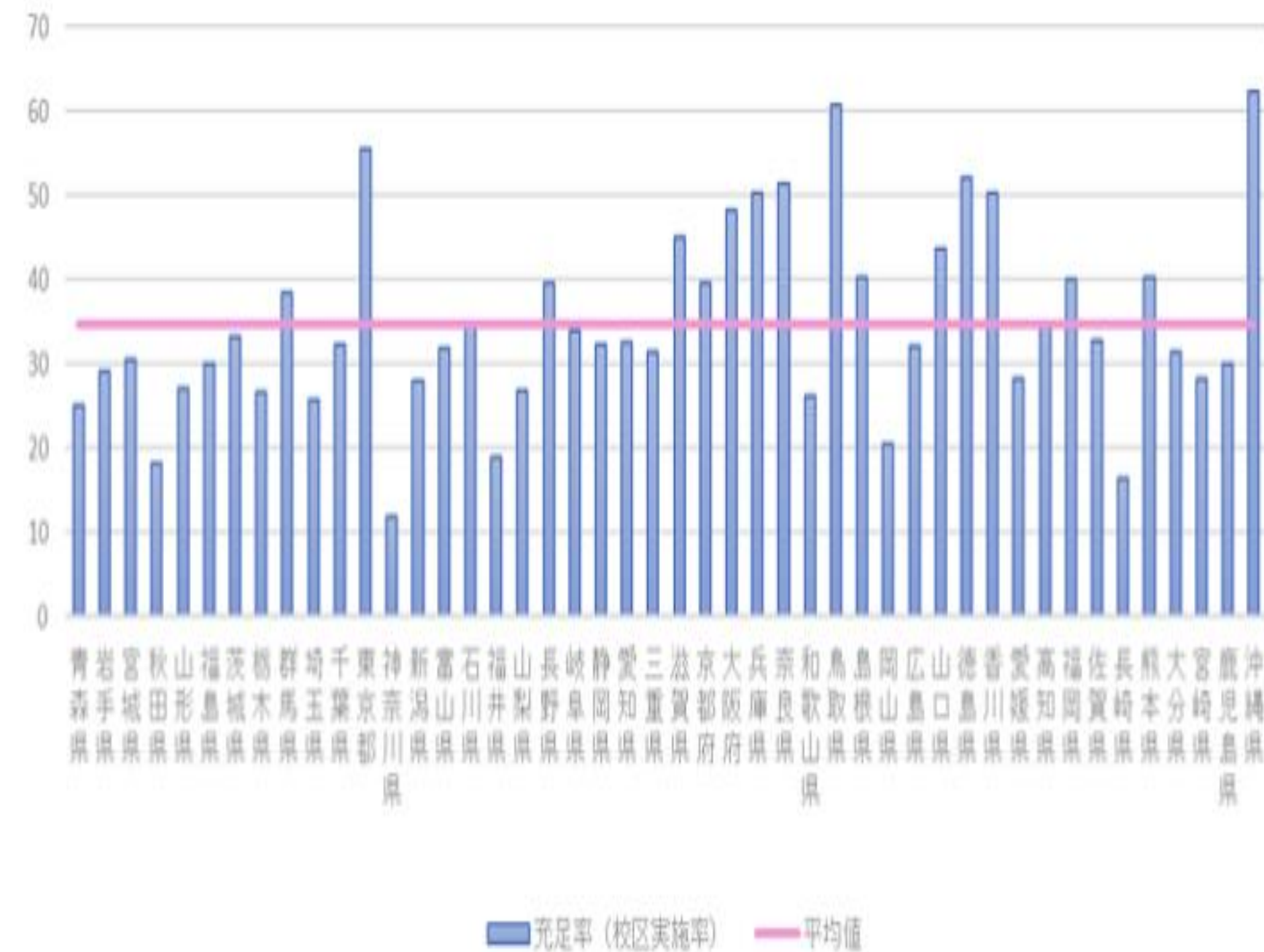
指標等	沖縄	全国	備考
子どもの貧困率（沖縄H27年度、全国R元年）	29.9%	13.5%	全国の2倍以上
子どもがいる大人が1人の世帯の貧困率（沖縄H27年度、全国R元年）	58.9%	48.1%	
10代の出産割合（R元年）	2.2%	0.9%	全国1位
離婚率（人口千人当たり）（R元年）	2.52件	1.69件	全国1位
母子世帯出現率（沖縄H30年、全国H28年）	4.88%	2.47%	全国の約2倍
中学校卒業後進路未決定率（R2年3月卒）	1.4%	0.7%	全国1位
高等学校の中途退学率（R元年度）	2.3%	1.3%	全国1位
高等学校等進学率（R2年3月卒）	97.5%	98.8%	全国47位
大学等進学率（R2年3月卒）	40.8%	55.8%	全国47位
若年無業者率（H29年）	3.2%	2.3%	-
※参考 小学校の不登校児童数（児童千人当たり）（R元年度）	12.4人	8.3人	-
※参考 中学校の不登校生徒数（生徒千人当たり）（R元年度）	44.3人	39.4人	-
※参考 高等学校の不登校生徒数（生徒千人当たり）（R元年度）	27.3人	15.8人	-




小学校区実施率62.1%(34.66%)・人口10万人当たり箇所数24.3か所(9.98)

2024年充足率（校区実施率）（%）

2024年人口10万人当たりの箇所数





平成30年度
沖縄子供の貧困緊急対策事業アンケート
調査結果について

(概要)

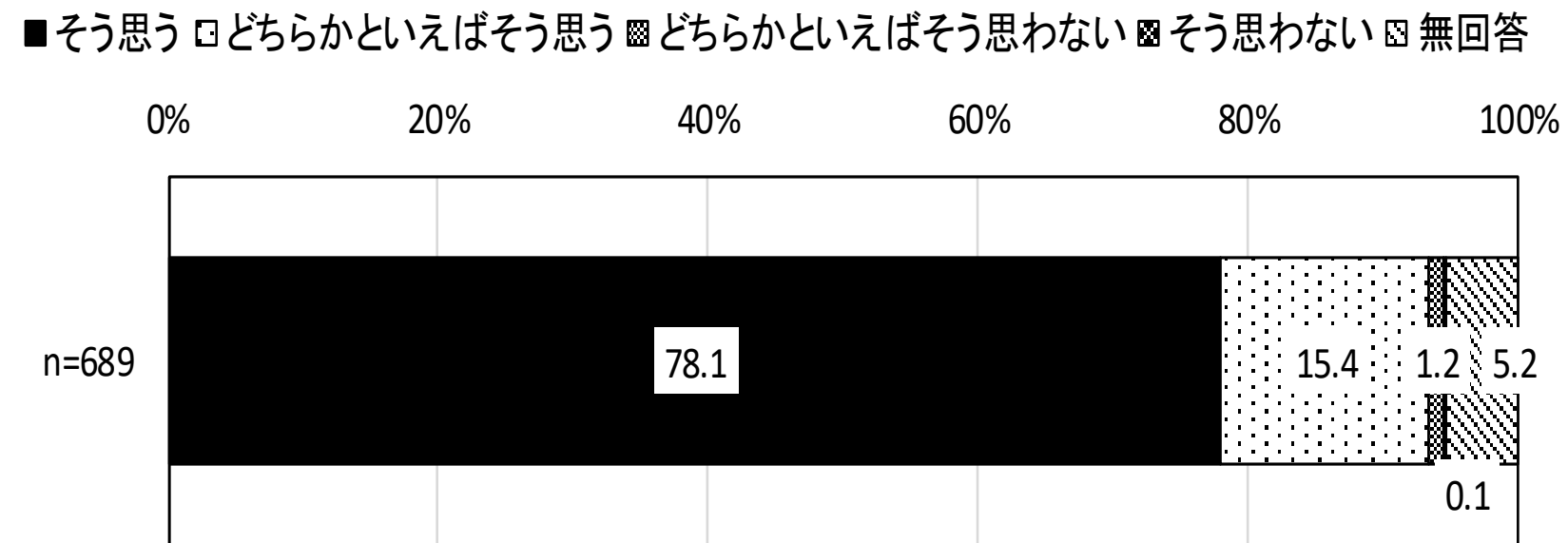


令和元年6月11日

内閣府沖縄振興局事業振興室
沖縄県子ども生活福祉部子ども未来政策課

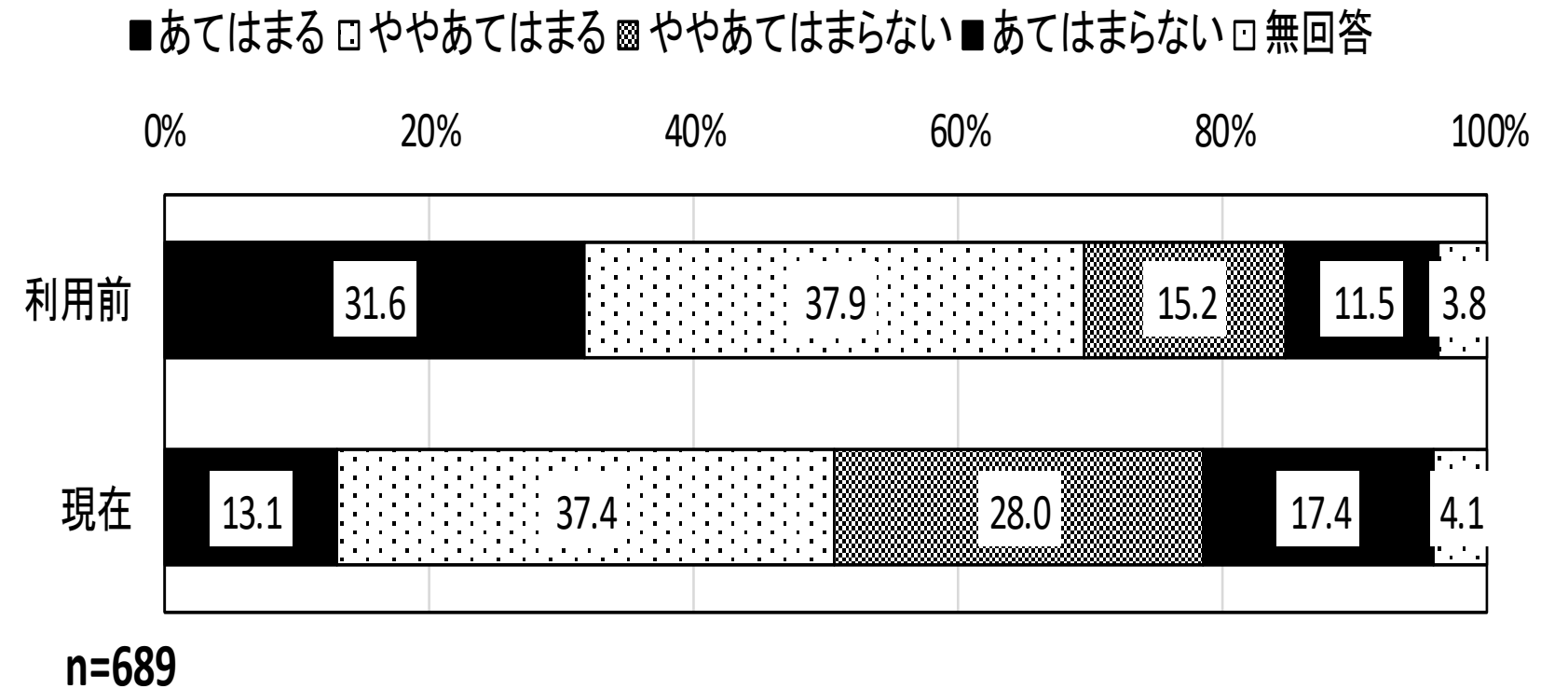
■ 保護者の変化

◇【保護者票】お子さんが居場所を利用するようになって良かったと思うか



居場所を利用するようになって良かったかを見ると、「そう思う」が78.1%で、「どちらかといえばそう思う」が15.4%で、あわせて93.5%が肯定的な評価をしている。

◇【保護者票】不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある

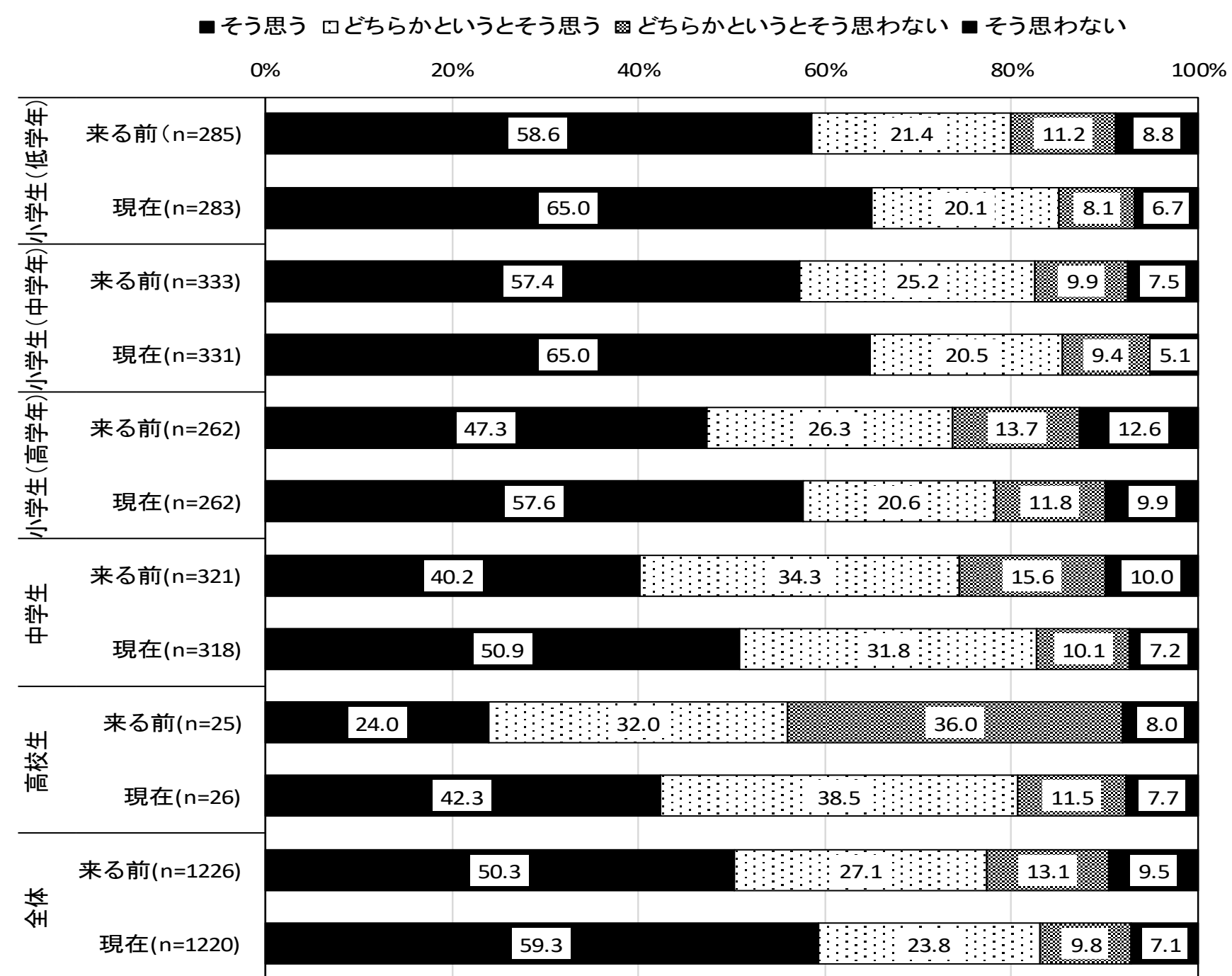
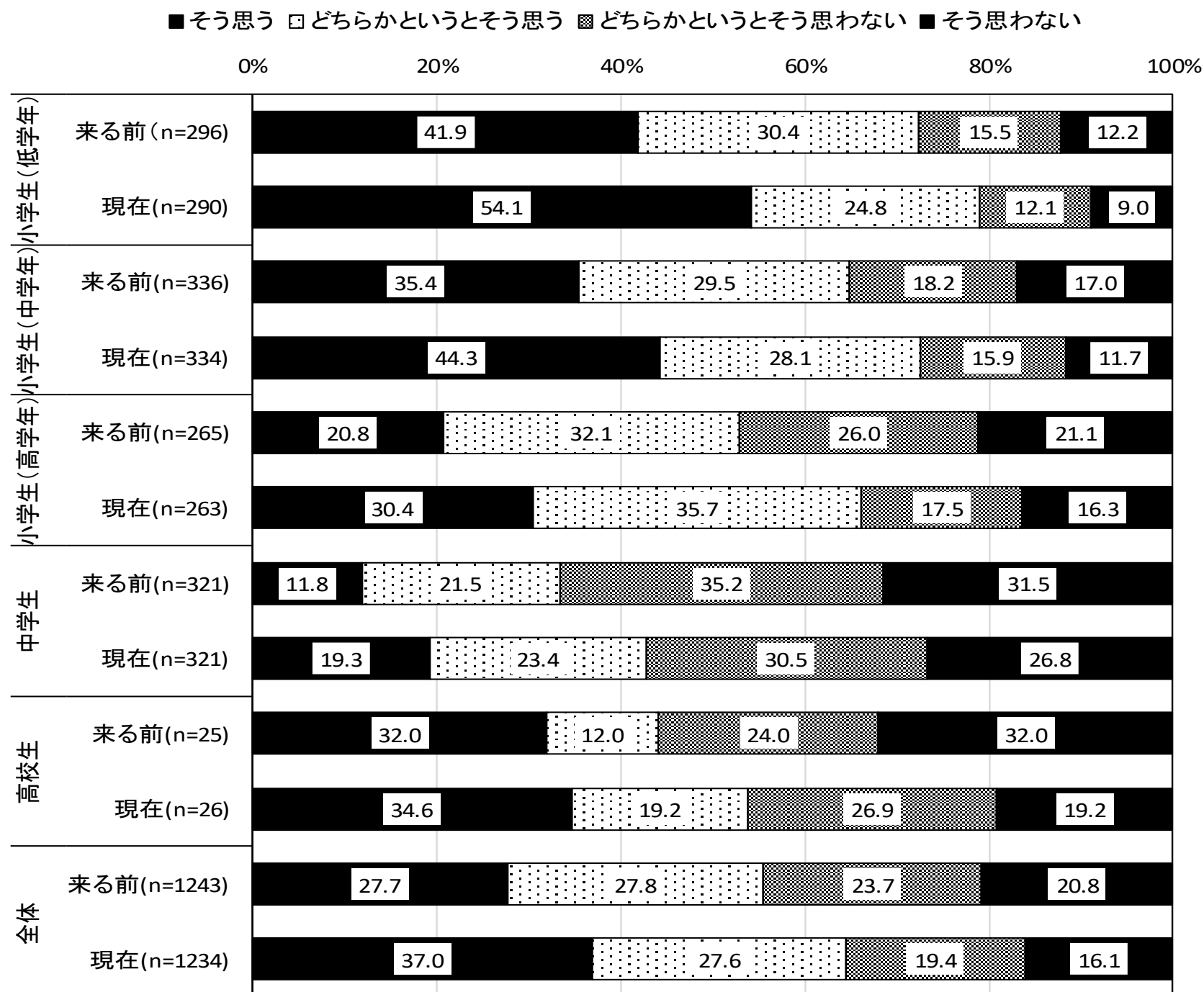


子どもが居場所を利用する前と現在を比較した場合、「不安やイライラなどの感情を子どもに向けたことがある」について、「あてはまる」と回答した割合が18.5ポイント減少している。

子どもたちの変化 ③社会環境（自己効力感）

◇【子ども票】自分への自信 （自分に自信がある）

◇【子ども票】頑張る気持ち （将来のためにも今頑張りたいと思う）



来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「そう思う」の回答割合が高くなっており、自分に自信があるという意識が高くなっている。

来る前と現在の変化を見ると、全ての層で、来る前に比べて現在の方が「そう思う」の回答割合が高くなっており、将来のためにも今頑張りたいという意識を持つ傾向にある。

■子どもの声（自由記述欄より）

- 他の人に言えない事とか、たくさん相談できて悩みをためずにいられているところです。
- ともだちがふえて、いろいろなことがまなべて、知らないことを、たくさんのスタッフやそのばしょにいる人たちがおしえてくれる。
- 自分に合った勉強のしかたをみつけることができた。席次があがった。将来のことについて考えることができた。
- 友達と仲良くできるようになったし、そこに行って友達もいっぱい出来た。『良かった』って思うことがいっぱいある！！
- ついて行けなかった勉強など、困っていることのたいはんはついてこれるように、気持ちもスッキリするように。
- まったく知らなかった人としゃべれるようになったし、大人をもっと信用できるようになったことがこの居場所にきてよかったこと。
- 友達もふえて、自分の人生が楽しくなった。
- 友だちがたくさんいてたのしかった。わたしがはじめていばしょにきたときにスタッフの先生がちゃんとわたしの目を見てくれて「よろしくね。」とってくれたことがうれしかった。
- 居場所に来る前は、高校卒業したらいいと言う気持ちだったけど来てからは、高校卒業してからのやりたい事や楽しみがでできた。

■ 保護者の声（自由記述欄より）

<居場所の利用について>

- 色々な方との関わりの中で、子供ながら社会のルールなどをしっかり学びながら、年の違う子達との遊びや、話をすることなどをとても楽しんでいるようすで安心していきます。先生方もとても親切でとてもありがたいです。
- 学校での部活等に興味がなく、家でゲームばかりしていたり、友だちと遊んでトラブルが多かったが、利用する事で、本人なりにやりたい事や人づきあい等をうまくこなせるようになったと思う。将来の目標も出来たようで、少しずつだが精神面での成長も見られている。
- 毎日、怒ってたのが、利用するようになってから、全然怒らなくなった。子供が、落ちつくようになって、私が体調悪い時など、手伝ってくれたり、かなり、おりこうさんになっていて助かっている。
- 利用する前は、イライラが多く、暴言を吐くことがあったが、居場所を利用するようになってからは、楽しみが増えて、笑顔でいることが多くなりました。勉強も、少しずつ分かるようになり、本人の自信につながっているので良かったと思っています。
- いろんな方との交流があったりする事で協調性が育った気がします。又、一人親などの支援が少ない中、無料で子供が居場所に行けるのは、ありがたいです。もっと居場所を増すべきだと思います。
- 1人親で仕事から帰り、子供の勉強を毎日見る事にストレスからイライラすることが多く、子供にとっても良くないと思って悩むことがよくありました。週2日ですが利用させて頂いて気持ちが少し落ちつけるようになりました。

子どもの居場所での「個別支援」の特徴

暮らしの中での支援：会食やフードパントリー等を通じ、顔見知りの住民やボランティアが提供する支援が中心で、支援対象者に対して「身近な地域」という安心した環境の中で必要なサポート。

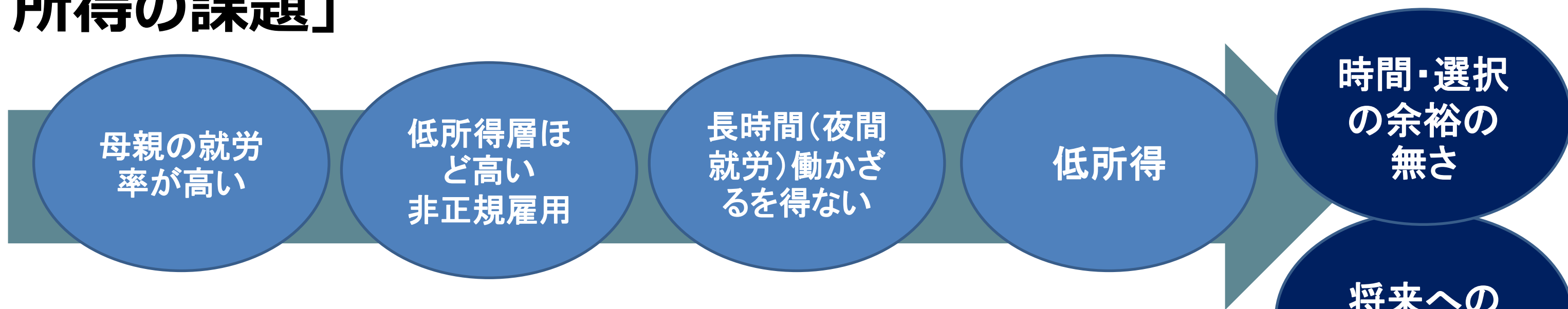
気軽な相談やつながりの場としての支援：制度福祉のように計画に基づく支援ではなく、まずは日常の会話や食事の場を通じて支援を開始する点が特徴。地域住民と顔を合わせる機会を持つことで、相談のハードルを下げ、行政窓口に行きづらい・支援を避けてきた人々の支援の入口となりやすい。

制度の枠を越えた柔軟な対応：制度福祉では支援対象者が法的条件を満たしていることが要件になるが、この個別支援では法的な枠組みに縛られず、「気軽に話せる関係」を基盤に支援が行われ、制度福祉の対象外の人にも支援が届きやすい。

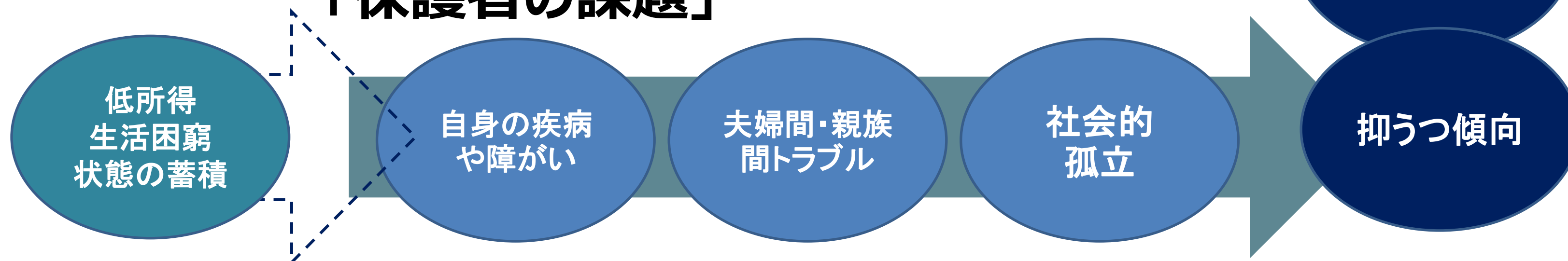
「安全地帯」・「つながりやすさ」・「間口の広さ」

令和3年度沖縄子ども調査にみる子どもの貧困の様相

「所得の課題」



「保護者の課題」



「子育てへの影響」

子どもの所属する家庭課題の有無による整理

		保護者の子育て態度等の課題	
		無し	有り
所得の課題	有り	「低所得」	「貧困」 自己肯定行動の低下
	無し	一般	児童虐待等 自己肯定行動の低下、トラウマ記憶

出典: 本村真_子どもゲンキプロジェクト学習会資料

食を通じた見守り体制強化の課題

ニーズ

子どもの居場所

【交流】

【学習】

【体験】

「食」を通じた活動とその機能

会食
(集う)

- ・食事・おやつ
- ・食卓を共に囲む
- ・多様な役割機会

フードパントリー
(立ち寄る)

- ・食材・日用品提供
- ・出会い・きっかけ
- ・ハードルを下げる

配布
(届ける)

- ・食材・日用品提供
- ・直接つなぐ
- ・ドアを開ける

行政サービス

- 自立相談支援
- 就労支援
- 家計相談
- 生活支援
- 子育て支援
- 就学援助 他

中間支援・協力者

まとめ ～見守り体制強化のポイント～

① 身近な安全地帯

- ・気になる子どもや家庭にとってのつながりやすさとは？
- ・パワーレス状態からの出会い
- ・共に自助を高め合い、共助を築き合える

② 違いを活かし合えるネットワークと中間支援

- ・支援疲れ・依存を防ぐための仕組みとは？
- ・強みと課題を持ち寄れる場づくり
- ・ネットワークを重ねて圏域・領域を超える資源調達

③ 見守り体制の全体設計

- ・既存の活動から専門機関や行政サービスにつながる結節点とは？
- ・異なる価値観が前提となる連携のための具体策（共通言語等）
- ・つながりによる支援ルートの構築（通訳と橋渡し）



参考

沖縄子ども調査

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/jido/1018770/1031222.html>

沖縄子供の貧困緊急対策事業効果測定アンケート結果報告

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/jido/1018770/1007969.html>

認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ_全国箇所数調査

<https://musubie.org/news/10825/>